



## 氷見市教育研究所

氷見市本町4-9

(氷見市教育文科センター内)

〒935-0016 電話(0766)74-8221

FAX(0766)74-5520

e-mail kyouikukenkyl@city.himi.lg.jp

ホームページ <http://www.city.himi.toyama.jp/~60200/>



## 「美味しい」と「美味しく」と

氷見市立北部中学校 校長 北鹿渡 文照

美食ブームとやらで、近年、富山湾の魚を食べ歩くテレビ番組が多く放映されるようになった。おかげで、氷見市も少しはメジャーになったかもしれない。

ところで、先日ある書物で「美味しいものを食べる」と「美味しくものを食べる」とは、似て非なる行為である、という記述を目にした。「美味しいものを食べる」とは、今日はすき焼き、明日は天ぷら、明後日はお寿司をという具合に、次々と美味しい「もの」を食べることであり、見方によっては「もの」に振り回されている、いわば主体性のない生き方である。一方、「美味しくものを食べる」とは、例えば食材は粗末なものであっても、丹誠を込めた手作りの料理に、家族が食卓を囲んでにこやかに語りながら舌鼓を打っている、そんな光景を指しているというのである。興味深い指摘である。後者からは家族が互いに慈しみ合い寄り添っている姿や、家族の一員として自分の役割を果たしている主体的な生き方が見えてくる。

この指摘は、単にものを食べることにとどまらず、家庭や学校の在り方についても示唆している。鍵のかかる子ども部屋にテレビ、コンピュータ、ゲーム機、…。「勉強しなさい」と繰り返し言うだけで、ほしいものは何でも買い与える親。勉強さえしておればお手伝いも何もしなくてよい子ども。家庭は子どもたちが出会う最初の社会であり、生活の基盤となる社会であ

るのに、それぞれバラバラで「一つ屋根の下」、「同じ釜の飯」という関係がなければ、ものの豊かさはあっても、家庭の教育力は発揮されず、忍耐力や他を思いやる心は育たない。

学校も同じである。選択教科に多様なテーマ活動、便利な教具と豊富な教材、美しい教室に少人数指導、設備の整った特別教室。いつもにこやかで物わかりのよい先生。学校は同年代のものが集う学習に適した社会であるのに、互いに深くかかわり合うことを避け、さらっと乾いた人間関係しか構築できなければ、社会の構成員として必要な規範意識や人間関係形成能力を培っていくことはできない。

ものの豊かさは快適で便利な生活を保障するが、それだけでは私たちの心は満足しないし、成長もしない。苦しみを伴うからこそ、喜びは大きくなる。人と人とのかかわりの難しさを体験するからこそ、深い信頼関係を築くことができる。足が速い、計算が得意、絵が上手、人間にはいろいろな「差」があることを実感するからこそ、一人一人のよさを認め合うことができる。命のはかなさに気づくからこそ、命の尊さを学ぶことができる。

子どもたちが心豊かに生きていくための基礎を培っていく場所として、家庭や学校の在り方を今一度見直してみる必要があるのではないだろうか。

## 第16回

# 教育大会報告

今年度の教育大会は、「生きる力」を育てる学習指導一・小・中学校の連携を通して一をテーマとしました。分科会での授業や協議、全体会での研修報告が、今後の各中学校校区で行われる小・中学校の連携の一助となれば幸いです。

また、落語家 笑福亭竹林師匠の講演は、笑いの中にも保護者とかかわりや教師としての心構えについて考えるよい機会となりました。



## 小・中学校の連携による授業づくり

### 小学校の授業への参加を通して

アドバイザー 氷見市立北部中学校 廣田 千恵

比美乃江小学校、森田智子先生の3年理科「明かりがつくひみつを探ろう」の授業にアドバイザーとして参加させて頂きました。提示された教材は、子ども達が自然に遊びたくなるようなしかけがあり、次の学習を進めるうえでも効果的でした。発達段階を考慮し、かつ単元全体にかかわりをもつ工夫がされていることに感心しました。

また、指導案検討会などに参加し、小学校での電気の学習の流れと内容を聞き、中学校卒業まで学習内容に繰り返しがないことも分かりました。

電気分野の学習が、小・中・高を通してどのように進められていくのかを分析したうえで、中学校の学習を進めて行かなければならないことを、アドバイザーをさせていただき改めて感じました。

### つなぐ

授業者 湖南小学校 松下 稔

「先生！！中学校の先生って意外と優しいんだね。安心したわ」この言葉を聞いたとき、授業をしてよかったなと感じました。また、アドバイザーでありながら、ゲストティーチャーとして授業に参加して下さった十三中学校の田中順一先生から「いい子供たちで安心しました。ぜひこうした機会をまたもちたいですね」と、うれしい言葉をいただきました。

このように教師間の連携だけではなく、6年生と中学校の先生が互いに知り合う機会が増えれば、中1ギャップは解消していくのではないのでしょうか。授業をさせていただいたおかげで、湖南の6年生は安心して進学できると思います。よい機会を与えて下さった教育委員会、快く授業に協力して下さった田中先生をはじめ、十三中学校の先生方に感謝いたします。

### 「生徒が生きる授業」を目指して

授業者 西條中学校 坂井 幸恵

協議会で「この学活の授業は生徒にとって必要感があるのだろうか」という言葉がありました。自分としては、心身共に安定し落ち着いて学校生活送るために、「健康について考え、規則正しい生活をしたり、食生活に気をつけたりすることの大切さを生徒たちに伝えたい」という思いから行った授業でした。しかし、生徒たちの関心は、友人関係や学習、進路の方が大きく、必要感をもちにくいテーマだったのです。また、アドバイザーの先生から、「教師主導型で手立てを設けすぎているため、生徒の発言が少なかった」という意見も参考になりました。

小学校では、子どもたちはもっと自由に生き生きと発言しているそうです。生徒の主体的な活動を通して意義のある内容を学ばせる授業について研究していきたいと思いました。

## 研究委員会からの報告

### 学校評価システム研究委員会

#### 「学校評価システムについての実践研究で得たもの」

速川小学校 教頭 竹越 順子

今年度、市内の6校が学校評価システムの研究に取り組み、各校でアクションプランを立て達成のための具体的な方策を工夫しながら、実践を進めてきました。

子供一人一人が目当てをもちやすいように数値指標を設定したことや、結果より努力する過程を評価するようにしたことにより、子供たちの間にも意欲的に自分を伸ばそうとする姿がみられました。一方、学校が行った自己評価について、外部評価委員に外部評価をしていただき意見をもらうことは、学校運営の改善に大いに役立つとともに、地域の方々の教育に対する熱意も伝わり、学校にとって大きな励みにもなりました。



### 郷土学習資料研究委員会

#### 「わたしたちの氷見市」の改訂作業に携わって

宮田小学校 教頭 仙城 徹仁

今年度、5名の研究委員と共に郷土学習資料「わたしたちの氷見市」(10訂版)の改訂作業に携わりました。改訂作業に入る前に、特に次の諸点について配慮しました。

- ① 児童にとって使いやすいものにする。(見出しのつけ方)
- ② 児童にとって見やすいものにする。(ページのとり方)
- ③ 調べたことを記録するスペースを適切なものにする。
- ④ 調べるときに必要なでないことを削除する。
- ⑤ 統計グラフ、地図、写真等の資料をできるだけ新しいものにする。

学習意欲が高まる社会科の授業を展開するには、身近な地域の教材化を図ることが大切です。これからも、この「わたしたちの氷見市」が有効に活用され、児童に社会科の学び方が身に付くことを願っています。

### 英語活動研究委員会

#### 「小学校英語活動事例集」の作成に寄せて

朝日丘小学校 教頭 山本満里子

ベネッセ教育研究開発センターの調査によれば、小学校英語教育を進める上での大きな困難として「指導する教員の英語力」「教材の開発や準備のための時間」「指導のためのカリキュラム」が上位三つを占めています。今回作成した小学校英語活動事例集が、幾分かでもこの悩みにこたえられたらと思っています。

利用しやすい事例集となるよう、小学校での英語活動のねらいや方針を十分に話し合い、低・中・高学年ごとに、行事や学年の学習内容等とも照らし合わせて年間計画を立てました。資料として授業に役立つ歌やワークシート、参考図書なども載せました。これを基に各学校でより充実した年間計画を立てられることを願っています。また、学期ごとの展開例も掲載しましたので、児童の実態に合わせ、是非ご活用ください。



# 平成 18 年度 教育論文・教育実践記録の審査結果

本年度は小・中学校合わせ 13 の教育論文・教育実践記録の応募がありました。内容は、全教育活動 1、国語 1、理科 1、生活 1、音楽 1、図工 3、英語 1、教科と総合的な学習の時間 1、道徳 1、特活 1、特別支援 1 と多様な分野での実践でした。

応募されたどの論文・実践記録からも、子ども達の成長を願う先生方の思いが強く感じられました。また、子どもの変容を確かめながら指導内容や方法を改善する先生方の真摯な姿から、教育実践の充実ぶりもうかがえました。

論文や実践記録にまとめることは大変骨の折れる作業ですが、日々の実践を客観的に振り返ることができ、教師としての指導力を高めるよい機会となります。来年度は、さらに多くの学校や先生方から応募があることを願っています。



結果	学校名	氏名	研究主題
一席	朝日丘小	窪田 絵美	自分の思いをもち、楽しんで伝えることができる子供を目指して －国語科の学習を中心にして－
二席	女良小	山口 陽子	自分に自信をもち、人とかかわることができる子供の育成を目指して －人とかかわり方を学んでいく上で 特別な支援を必要とするM児との3年間の歩みを通して－
二席	北部中	寿田 直子	生徒たちの主体的な学びを引き出すための工夫 －中学校での英語指導の実践を通して－
三席	窪小	指崎 邦久	ふるさとに学びふるさとを愛する児童の育成 －音楽科「氷見の民謡 網起こし木遣り」の実践を通して－
三席	海峰小	指崎 美香	自分の思いを大切にし、表現の可能性を追究する中で、 つくりだす喜びを味わう子供の育成を目指して －2年間にわたる図画工作科学習の実践を通して－
入選	久目小	加治 明子	自分らしい表し方を大切にする中で、つくりだす喜びを味わう子供の育成を目指して
	宇波小	北元 文子	意欲的に自然にかかわり、生き生きと表現できる子供の育成
	十二町小	三國 大輔	教科等の本質に迫る授業づくりと「自立した学び手」の育成
	海峰小	ITC活用研究会 表克昌	分かりやすく楽しい授業を目指して
	速川小	谷本 浩美	学校と家庭・保育園が協力し合って取り組む「いのち」の教育
	比美乃江小	森田 智子	自分の考えをもち、共に学び合う子供を目指して
	比美乃江小	吉木麻里子	友達とかかわりながら互いのよさに気づき、主体的に活動を進めていく子供を目指して
	女良小	寺澤 小織	地域の自然を生かし、豊かに表現する子供の育成

※ 入選は、応募順です。また、副題は紙面の関係上省略させていただきます。

教育論文・教育実践記録について詳しくは、紀要 255 号「平成 18 年度教育論文・教育実践記録集」をご覧ください。

## 臨床心理学入門

### 「子どもの心の扉」を開く援助の連携

スクールカウンセラー 羽岡 ゆみ子

体調が悪くなると発熱や下痢などをともなうので、受診し医師の指示に従います。同様に「心のいたみ」にも初期の対応が必要ではないでしょうか。今回は、「心の健康」のキーワードを二つ取り上げました。

(1) 「自己開示(self-disclosure)」

自分の考え・感情・経験などを他人に誠実に伝える行為を「自己開示」といいます。これを促す環境は、日ごろから、人格を傷つける言動を避け、「子どもを一人の人間」として尊重している環境ではないでしょうか。

(2) 「コーピング(coping)」

支えきれなくなった不安感や心理的ストレスで、不眠になったり、うつ的な症状になったりすることが誰にもあります。「コーピング」は、「対処」です。ストレスに苦しまない「対処行動」を身に付けておくことも大切です。

端折りますが、子どもの心が深く傷つく前に、気軽にカウンセラーを活用し、心療内科の戸を叩いて頂くこともお勧めします。